

EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

STEAM学習アプリケーションを
活用した観光人材育成推進協議会
(株式会社JTB・株式会社オープントーン)

【ツール名】

未来探究ゼミナール

(観光予報DS (Data Science) ・観光予報プラットフォーム)

【ツールの機能分類】

発展的な学び

2023年2月



未来探究ゼミナール 先の見通せない今こそ求められる「データ（根拠）に基づいて未来を描く力」

社会の仕組みや人との繋がりが大きく変わりつつある今だからこそ、身近な課題を自分ごととして向き合い、データ（根拠）に基づいて未来の新しいスタンダードを創り出す力を育てるプログラム。

国内外の約40億泊のデータ（宿泊客の属性等）を持ち、動向把握・需要予測ができる「観光予報プラットフォーム」とSTEAM学習アプリケーション「観光予報DS（Data Science）」で観光、気象、産業など様々な分野のデータを複合的に分析しながら街や地域の課題を見つけ出し、根拠に基づく解決案を導き出すことをサポートする。



国内外の宿泊客の属性・動向把握分析、6か月先の宿泊予測の把握ができ、宿泊者の居住国、居住都道府県、年齢層、宿泊単価、滞在日数、参加形態、食事条件、宿泊先等の把握・分析が可能。更にこれらをクロス分析できるアプリケーション。

（販売代理店：株オープトーン）



観光ビッグデータをベースに、街や地域の課題を見つけ、データを掛け合わせながら分析し、相関を調べ、エビデンスをもとに

（EBPM）、効果や影響を考えながら解決アイデアの創出までをサポートする学習アプリケーション。

（株JTB）

有用なデータを集約

RESAS（経済産業省・内閣官房）
V-RESAS（内閣官房）気象（気象庁）
e-stat（総務省統計局） など

観光予報プラットフォーム・観光予報DS
アプリを活用したSTEAM

&

探究学習プログラム

未来探究ゼミナール

- 観光予報プラットフォーム・観光予報DSのビッグデータ、データや事実に基づくSTEAM型探究学習
- デジタル・タキノミーによる「学習プロセス」×「形成的評価」を基礎としたカリキュラム
- 総合的な探究の時間へ無理なく組み込めるカリキュラム

根拠に基づいて未来を描く力を育成

- 身近な観光や旅を通し、エビデンス×ICTの効果的な活用による「思考・判断・表現」の育成をサポート
- 「根拠に基づいて未来を描く力」を育み、根拠に基づいて未来の新しいスタンダードを創り出す力を育てる

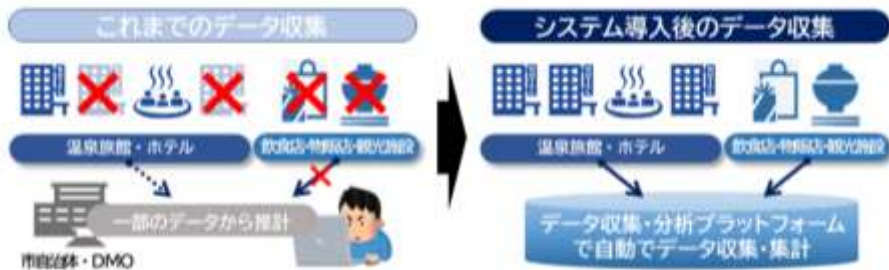
■ EdTech ツールの概要

観光予報プラットフォームと観光予報DSを活用することにより、生徒・教職員共に情報を探し、データ収集する労力と時間から解放され、データが地域のものではない、情報が古くて使えないといった問題からも解放され、また様々な地域が検索できることで他地域との比較も容易となる。

観光予報プラットフォーム

個々に自由な時間に街の特徴や過去の観光（宿泊）実績を調べるだけでなく、市区町村毎に6か月先の宿泊需要予測と地域の観光資源情報が閲覧できる。他に地域の需要（来客）予測を検索できるツールはなく、操作も簡単なことから、中央省庁、自治体、観光協会、観光事業者、大学など幅広く利用されている。

複数のデータから推計値を把握 ⇒ 地域全体の傾向把握



国別や年代別等、属性別の傾向を分析可能 ⇒ 因果関係の把握



生徒おひとり様
月額15,000円（税別）

観光予報DS

観光ビッグデータをベースに、街や地域の課題を分析し、相関を調べ、エビデンスをもとに（EBPM）、効果や影響を考えながら解決アイデアの創出までをサポートする学習アプリケーション。全国どの地域でもデータが取り出せ、中・高校とレベルに応じて使用することができる。

データを掛け合わせ、分析 ⇒ 相関分析・他都市との比較が可能



経済的波及効果予測が可能 ⇒ アイデアの効果検証が可能



【総合編：8コマ、中高対象】
生徒おひとり様 年額6,000円（税別）
50名様未満の場合一校一律300,000円（税別）
【データ分析編：7コマ、高校対象】
生徒おひとり様 年額4,000円（税別）
50名様未満の場合一校一律200,000円（税別）

【代金に含まれるもの】アプリケーション利用料、STEAM&探究学習活動案作成費用、ワークブック、ルーブリック評価表作成及び監修料、副教材（ICTリテラシー向上ハンドブック）

【代金に含まれないもの】初期設定・セットアップ費 生徒おひとり様2,000円（税別）、EdTechツールサポート費（ツールの操作・利用説明、導入研修、JTB講師派遣料）

ハードウェア調達及びWi-Fiなど環境整備に係る費用、光熱費通信費

■ 学校等教育機関の抱える課題

学校等教育機関を取り巻く現状

文部科学省が示した、「第3期教育振基本計画」では、Society 5.0時代への対応、子どもたちの多様化等、教育現場を取り巻く状況の変化により、教職員には様々な役割、対応が求められており、一人一人の教師の力だけで学校現場が抱える多くの課題を解決することは困難であることが指摘されている。こうした状況を踏まえ、多様な組織による支援体制の充実が必要である。

【第3期教育振基本計画 教育をめぐる現状と課題】

○急速な技術革新への対応

- ・IoT やビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展している中、諸外国と比べて遅れている部分があり、取組みの加速化が求められている
- ・授業においてコンピューターを使っている生徒の割合は OECD加盟国で最も低い水準にある
- ・情報化が進展し、あらゆる分野の多様な情報に触れることが容易になる一方で、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確にとらえたりしながら読み解く能力に課題が生じているとの指摘もある

○教師の負担の増加

- ・学校に求められる役割が増大し、教師に負担がかかっている
- ・我が国の中学校教師の授業時間は調査参加国の平均を下回っている一方、勤務時間は上回っている

○教員間の連携、教科学習との連携

- ・新たな学習指導要領の円滑な実施には、学校の指導・事務体制の効果的な強化・充実や地域との連携・協働などの取組が求められている

■ 学校等教育機関の抱える課題

学校等教育機関の抱える課題

教育機関では、ICT教育・STEAM・探究学習など様々な課題を抱えています。

課題 1 STEAM・探究など新しい教育課題に対する教職員の負担増加

課題 2 PBL（課題解決型学習）、データを活用した学習の実践不足、専門教員の不在

課題 3 教員間の連携、教科学習との連携

課題の改善・解決を図るため、観光予報プラットフォーム・観光予報DSを用いた
「未来探究ゼミナール」プログラムを設計し、教育現場をサポート

「未来探究ゼミナール」プログラムの特徴

1. データや事実に基づくSTEAM型探究学習

観光予報プラットフォーム、観光予報DSを通して様々なビッグデータに容易にアクセスでき、想像や不確実なネット検索による探究から、根拠に基づくSTEAM学習を取り入れた探究学習への転換が可能。

2. 地域の課題に基づく未来志向の探究学習

生徒に身近な地域の課題を起点にしつつ、裾野の広い社会全体の課題である観光・地域活性という未来への答えがまだない課題にチャレンジが可能。

3. 総合的な探究の時間へ無理なく組み込めるカリキュラム

ソフトウェアを授業に無理なく、有効的に活用するための学習計画案、ワークブック、ルーブリック評価シートを組み込み、体験授業に終わらせず、生徒の成長と効果の振返りが可能。

■ EdTech導入補助金2022における活用事例

「未来探究ゼミナール」プログラムの内容

街の単純なデータの収集から課題を立て、複数のデータの相関を見ながら立証、課題の解決に向けた提案の検討を進める。

コマ	探究学習	各時間の概要	主な学習活動
1	導入	観光予報PF・DSレクチャー 【テーマ】ビッグデータに触れてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 観光予報PF・DSを操作する 興味のある街や地域について調査
2	課題設定	具体化と問い立て 【テーマ】魅力や課題を深掘しよう	<ul style="list-style-type: none"> グループで探究する内容を1つに決める 具体化し、問を立てる
3	情報収集	客観的な根拠となるデータ収集 【テーマ】必要なデータを探してみよう	<ul style="list-style-type: none"> 問いに関するデータを探す データをもとに、未来に向けたアイデアを考える
4	整理分析	成果発表のための土台作り 【テーマ】ポスターの骨格を固めよう	<ul style="list-style-type: none"> 必要なデータを活用できているか確認する 調べたことや考えたこと、伝えたい事をまとめる
5		ポスター制作 【テーマ】アイデアを形にしよう	<ul style="list-style-type: none"> テーマやキーワードを組み合わせる 図やグラフ化し、データを組み合わせる ポスター原案をグループの枠を超えて共有
6 7			
8	まとめ表現	発表・審査・振り返り 【テーマ】成果を発信しよう	<ul style="list-style-type: none"> 新しい価値を提案する デザイン、考察等の観点から評価



EdTechツールによる活用事例

私立・中学校

新渡戸文化中学校

- 【導入学年】 中1～中3
- 【授業回数】 8回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 研修旅行先
：東北・和歌山・徳島
- 【授業科目】 総合的な学習の時間



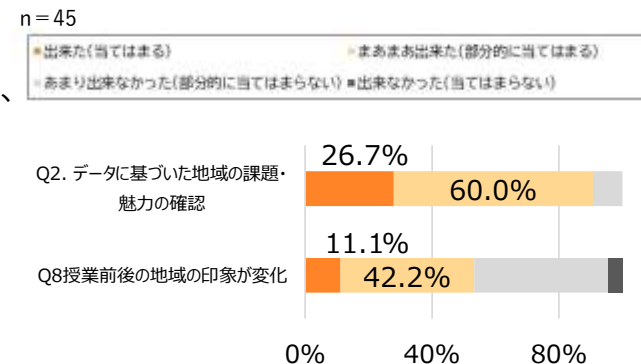
出典：新渡戸文化中学校HP

～探究学習の成果を外部の協力機関へ発信～

取組結果

効果的な事前学習の実現

- ✓ データをもとに根拠だてて地域の課題や魅力を確認することができ、探究した地域の印象や見方が、授業前と比べて変化していた。
- ✓ 事前学習でオンライン交流をした研修先に対し、プレゼンテーションを実施した。



取組内容

研修旅行の旅行先を探究地域に設定、オンラインで事前学習を行い、旅行先について現状を知る取組を実施

事前学習

- ・東北・和歌山・徳島の地域の魅力、課題について研修旅行先とオンラインで交流しながら学習、データに基づき魅力や課題を検証
- ・生徒は学校や自宅等、アクセス可能な場所から参加

研修旅行

- ・現地で実際に学んだことを確認、検証
- ・根拠だてとなる、データをもとに地域の課題・魅力を確認

まとめ・表現

- ・スライドを作成し、事前学習でオンライン交流をしていた訪問先や関係機関に対して現地にてプレゼンテーションを実施

【取組の様子】



EdTechツールによる活用事例

私立・高等学校

江戸川女子高等学校

- 【導入学年】 高2
- 【授業回数】 8回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 修学旅行先：北九州
- 【授業科目】 総合的な探究の時間



出典：江戸川女子高等学校HP

～探究学習の成果を文化祭で校外へ発信～

取組結果

協働学習の効果向上

- ✓ 生徒・先生共に地域の印象や見方が変わったという回答が、高くなった。
- ✓ 授業の発表だけではなく、文化祭を活用することにより、発表に向けてグループ内での役割を意識して行動することができた。



取組内容

福岡県福岡市・北九州市への修学旅行と連動し、魅力と課題について探究、発表する取組を行った

事前学習

- ・福岡市、北九州について事前に学習
- ・データに基づき、福岡市の魅力と課題について探究

修学旅行

- ・現地ではグループ別に行動、事前学習にて学んだことを確認、検証を行った

まとめ・表現

- ・ポスターを作成し、校内発表と文化祭で発信し、発表の機会を創出、校外への発信の場につなげた

【取組の様子】



EdTechツールによる活用事例

公立・高等学校

愛知県立半田商業高等学校

- 【導入学年】 高3
- 【授業回数】 8回
- 【PC環境】 一人一台
- 【探究地域】 地元：愛知県半田市
- 【授業科目】 総合的な探究の時間



出典：愛知県立半田商業高等学校HP

取組内容

データを分析し、因果関係を把握、地域の魅力や課題を動画で分かりやすく発信

課題の設定

- ・半田市、半田商業高等学校の魅力を、データに基づいて確認

情報収集

- ・それぞれのデータの結果から因果関係を把握し、地元の魅力が分かりやすいストーリーを構築

まとめ・表現

- ・観光甲子園2022に授業成果を応募
- ・動画コンテストである「YOU TUBE甲子園・夏」に授業の成果を応募

～探究学習の成果を外部コンテストに応募～

取組結果

地域連携の実践

- ✓ 外部コンテストへの応募により、ストーリーを持たせて繋がりを考えるなどデータの使い方に変化があった。
- ✓ 学習目標の中心である「地域連携の実践」が本プログラムを通して実施でき、データをもとに地域の課題・魅力を確認できた。

n=9



【取組の様子】



4) 未来レシピ 観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門

課題名	半田市、半田商業高等学校の魅力を、データに基づいて確認	SDG	12. 持続可能な消費の責任
担当者	ラベンダー	SDG	12. 持続可能な消費の責任
協力機関	半田市の汚染、歴史的建造物の維持管理	SDG	12. 持続可能な消費の責任

経済
社会
環境

観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門

2) 事業企画書 観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門

項目	内容	目的	意義
目的	半田市、半田商業高等学校の魅力を、データに基づいて確認	観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門	観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門
目的	半田市、半田商業高等学校の魅力を、データに基づいて確認	観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門	観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門
目的	半田市、半田商業高等学校の魅力を、データに基づいて確認	観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門	観光甲子園2022【SDG】緑学旅行部門

■ 補助事業において実施したサポート内容

- ✓ STEAM& 探究学習活動案作成、ワークブック、ルーブリック評価表作成及び監修に加え、ツールの導入研修やJTBの講師の派遣を行った。
- ✓ 授業内容のプランニングにおいて、対象生徒の学力、導入目的、手法、コミュニケーション力など特色を考慮することが重要であり、学校責任者、担任の先生と密な協議を実施。
- ✓ 学校の現状に即したサポート実施に繋がるようヒアリングを実施、導入に関する打合せ時に利用する書面や内容の再検討も行い、よりきめ細やかなサポートを行った。

【補助事業において実施したサポート】

導入に関する説明・打合せ等の実施

- ・ 全8コマを基本パッケージとし、学校の個別のニーズへの対応

学校長・授業実施責任者との協議

授業実施対象の担任先生への主旨説明と
生徒の特色に関する協議

授業実施担当である先生との授業プランの協議
(数回)

実施者・担任の先生との授業内容確認

未来探究ゼミナールの実施

社員によるファシリテーションの実施

- ・ 教員のICTスキル不足、探究活動の充実を目指し、JTB社員のファシリテーションを複数回実施



【ツール利用に際して自社のサポート体制】

- 事業実施運営担当者7名、各校の営業担当者3支店6名
 - サポート内容：操作説明、ワークブックレクチャー、ファシリテーション、授業立ち合い、電話・メール・TEAMSオンラインによるサポート
- 補助事業における特別対応：利用校募集、趣旨説明、利用実態調査（アンケート・聞き取り）

■ EdTech導入補助金2022における導入実績

2022年度の導入実績

No	学校名	国公立/私立	中・高	導入学年	授業回数	PC環境	探究地域	授業科目
1	新渡戸文化中学校	私立	中学校	中1-3	8回	一人一台	研修旅行先	総合的な学習の時間
2	江戸川女子高等学校	私立	高等学校	高2	8回	一人一台	修学旅行先	総合的な探究の時間
3	愛知県立半田商業高等学校	公立	高等学校	高3	8回	一人一台	地元	総合的な探究の時間

- ✓ 従来の旅行行事においては、訪問先の地域に対して十分な知識がない、もしくは、一般的なイメージのままで訪問しており、加えて、コロナ禍で旅行行事自体が実施できずに、現地での貴重な経験を得ることができない状態が続いていた。
そこで、データを用いた教室での探究活動と旅行行事を連動させることで、現地での体験をより良いものにできるよう取組を導入した。

主な成果

2022年度は、様々な視点から地域を知る**教室での探究的な学び**と、その学びに基づく**現地訪問による学習の高度化**を図った。
校外発表の場の充実を図り、**他自治体と協力し、地域連携の実践**も行った。



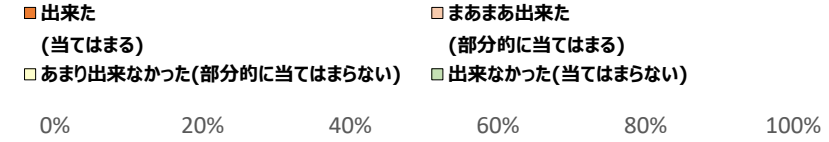
■ EdTechツールによる活用効果

▶ STEAM & 探究学習プログラム活用効果調査概要

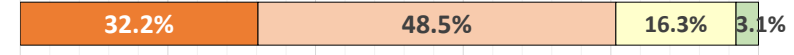
調査方法	Creative SurveyによるWebアンケート
調査期間	2022年12月1日～2023年1月11日
調査対象	プログラムがすでに終了している中学校(1校)、高等学校(2校)計3校(417名)
回答状況	297名(71.2%)

▶ STEAM & 探究学習プログラム活用の目的の達成状況

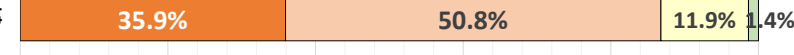
- ✓ 全ての項目で、「出来た」が「出来なかった」の回答の割合を上回っている。
- ✓ 「出来た」、「まあまあ出来た」の合計に着目すると、<Q2. データをもとに、地域の課題・魅力を確認する>、<Q7. 発表に向けて、グループ内での自身の役割を意識し活動>のは87%で、**情報収集、整理分析はある程度達成。**
- ✓ 「出来なかった」、「あまりできなかった」の合計に着目すると、13項目の中では<Q3問題解決・魅力増アイデアを考える>、<Q5グループのアイデアを聴き手に伝える>、<Q8 授業前と比べて変わった>が30%程度となっており、**「課題解決アイデア」と、「説明する力」**にはやや課題が残る。



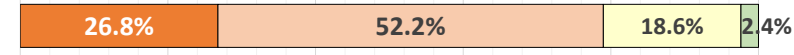
Q1. 1コマ目のレクチャー動画を視聴し、観光予報DS/観光予報プラットフォームを操作出来た。



Q2. データをもとに、地域の課題・魅力を確認する事が出来た。



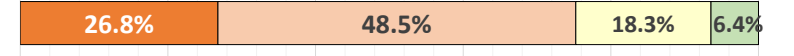
Q3. データをもとに、問題解決・魅力増アイデアを考える事が出来た。



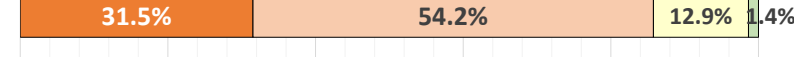
Q4. ポスター・スライドに他者の著作物(グラフや写真・図など)を利用する場合、出典元を明記出来た。



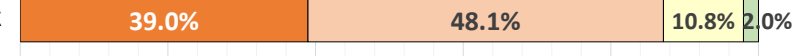
Q5. 観光大使として、グループのアイデアを聴き手に伝える事が出来た。



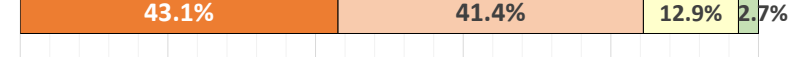
Q6. 振り返り(自己評価・自己内省)をし、次への活かし方を考えられた。



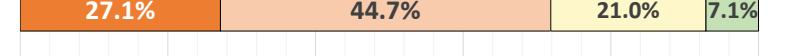
Q7. 発表に向けて、グループ内での自身の役割を意識し、活動する事ができた。



Q8. 今回探究した地域の印象や見方が、授業前と比べて変わった。



Q10. 「未来探究ゼミナール」の学習内容や学習活動について、満足している。



■ EdTechツールによる活用効果

▶ 生徒の感想

データを使った事前学習を行うことで、これまでにない視点を持って地域に関わることができた。一方で、授業外での取り組み方や目的意識の共有に対して要望が出ている。

■ 「出来た」・「出来なかった」の合計が高い項目に関する生徒の感想

【データを基にした地域の課題・魅力の発見】

- 地域に対するネガティブなイメージとは違う側面を見つけることができた。
- 過疎化という課題感は想像以上だった。
- 比べるといろいろなことがわかる。他地域と比較できた。
- 印象とデータ結果に差があることがわかった。今まで気づけなかったことがデータからわかった。
- 観光名所に行くだけでなく、知らないことを調べ、課題感を持って訪れる旅行になった。

- △ グラフやデータを読み取る必要性はわかるが、あまり意味を感じることができなかった。
- △ 難しかった。課題設定テーマ決めが難しかった。操作が煩雑だった。

【グループ内での自身の役割を意識・活動】

- グループワークが楽しかった。
- 表現する力が身につけられた。

■ 「出来た」・「出来なかった」の合計が低い項目に関する生徒の感想

【未来探究ゼミナールの学習内容・学習活動】

- △ 活動の目的・活動の指示の説明がよくわからず、すぐに行動に移せなかった。
- △ 慌ただしく時間が少なかった。やるが多すぎる。説明が少し長く、ワークのページも多い。
- △ 宿題にされると他のメンバーと話す機会が限られ、困った。時間をもっと取って欲しい。

▶ 教員からの感想・要望

地域活性化やデータの扱いなど、学校の授業ではあまり取り上げられない内容を外部事業者が連携しながら受け持つことで、**教員が各生徒のフォローに注力でき、負担軽減**につながった。

- 準備や専門的な内容などを学校外に任せることで負担が減り、生徒の見守りに注力できた。
- 生徒が前向きに取組み、一つのものを様々な視点から捉えようとしていた。

- △ 探究活動と旅行行事の連動・連携に課題が残る。
- △ 生徒が仮説を立てる時間を充分に取れなかった。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

STEAM & 探究学習プログラムの成果と課題

視点	成果	課題
探究活動からの生徒の気づき・ 探究活動と行事の連動	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 探究活動と行事の連動により、事前学習として様々な視点から地域を知る「探究的な学び」と、学んだことに基づいた「現地訪問」により、生徒の想像を超える魅力や事実の発見に繋がった 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生徒が期待する「楽しい行事」と、学習の両立が十分に伝わっておらず、生徒が「旅行なのに楽しめなかった」と受け止めていた
協働的な活動・個別最適な活動	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グループワーク等を通じた協働的な学びにより、生徒が持つ可能性を引き出すことができ、生徒の満足度の向上にも貢献した 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 限られた時間で活動を行うため、活動内容が多い ✓ 説明時間が適切に確保されていないと、活動目的の共有や具体的な活動指示が不十分になる ✓ 授業時間内で十分に実施できなかったことを、個別最適な学びの要素として効果的に取り入れるには、課題感を感じる結果となった
教員とEdTech事業者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域活性化やデータの扱いなど、学校の授業ではあまり取り上げられない内容を外部事業者が連携しながら受け持つことで、教員は各生徒のフォローに注力し、負担を減らすことができた 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校の事情や生徒の特性など現状に合わせて、基本プログラムを柔軟にカスタマイズすることは必要不可欠

- ✓ 学校に対する深い理解、サポート体制
 ✓ **基本プログラムを柔軟にカスタマイズ**するなど各学校のニーズに応じたプログラムへと進化が必要

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

■ 課題①

- ✓ 「楽しい行事」と学習の両立に対する生徒の理解不足
- ✓ データを活用した探究学習と修学旅行の連動が不十分

■ 改善策①

ワクワク感と、学びの一環を両立させるフィールドワーク型修学旅行の実践

- ✓ 探究学習と修学旅行での活動が十分に連動していない場合が見受けられ、教科の学びと旅のワクワク感をフックに事前学習を行い、課題設定を身近なテーマで自分ごと化できるよう、促していくことが必要である。
- ✓ 探究学習に修学旅行を組み込み、教室と社会を繋ぐ実践型地域探究を行うことで旅行行事を楽しむことと学びを深めることを同時に探究学習をプロデュースしていく。
- ✓ 課題設定のために、探究先となる地域に関する授業を実施し、生徒の自主的な情報収集を促していく。そのためには、旅行先の情報収集や探究と行事の連動が必要になる地域については、「地域理解編」のプログラム拡充によって地域の見方、情報収集のコツなどを生徒に伝えていく必要がある。
- ✓ 誰でも気軽に参加できるアウトプットの機会のある場となることを目指す「未来探究祭」等のプログラムを検討することで、旅行のワクワクと学びの両立を早い時期から生徒に周知することが可能になる。
- ✓ 発表においては、地域の方も参加していただき、フィードバックできるようになると、修学旅行との連動感がより高まることが期待される。

【期待されること】

「Q2 データをもとに、地域の課題・魅力を確認する事が出来た。」の満足度の向上

「Q10 『未来探究ゼミナール』の学習内容や学習活動について、満足している」の満足度向上

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

■ 課題②

- ✓ 協働的な活動と個別最適な学習に対する適切な支援

■ 改善策②

データの活用、思考力の向上に貢献する プログラムの拡充

- ✓ 授業時間外にも個別にワークを進めていく必要があるが、時間不足により具体的な活動指示ができず、効果的な取組を促すことができていない。特に初期段階の課題設定では、個別に情報収集したり、データの分析を進める必要があり、その段階への支援が必要である。
- ✓ そのため、学校・生徒のニーズや課題に応じた、既存のプログラムの拡充を図る。具体的には、考えを深めて探究学習に厚みを持たせることを目指す「思考力トレーニング編」や地域探究のデータ活用を目指す「データ活用編」等を通じ、個別最適な学習の支援を実施することが求められる。
- ✓ 協働の学びでしかできないこと（議論をする等）と、一人で準備ができること（データを探す等）をうまく色分けし、宿題や事前課題の出し方を工夫していく。

【期待されること】

「Q2 データをもとに、地域の課題・魅力を確かめる事が出来た。」の満足度の向上が期待される。

■ 課題③

- ✓ 教員によるカリキュラム運営のサポート体制の充実
- ✓ 教員と事業者のより深い連携

■ 改善策③

授業前からの対応の充実 教員ネットワークの構築

- ✓ 学校ごとによる探究学習の取組状況やクラス構成を事前に把握し、学校が適正なカリキュラムマネジメントを実行できるよう支援していくことが必要である。
- ✓ そのため、事前に探究学習の取組状況やクラス構成が把握できるよう申込書の改善を行い、双方が状況を共有した上で、授業を実施することが求められる。
- ✓ 教科教員だけでなく、クラス担任の教員が授業を行う場合も想定し、授業マニュアルの作成により生徒への声掛けポイントを整理し、ワークが進まない生徒へのフォロー体制の構築について工夫していく。
- ✓ 未来探究ゼミナール参画学校間で交流・情報交換ができるよう教員コミュニティの生成を検討する。併せてJTBの強みである学校、行政機関とのつながりを活かし、学校⇄地域との結びつきを強化する。

【期待されること】

「Q3 データをもとに、問題解決・魅力倍増アイデアを考える事が出来た。」に進化が期待される。

■ 会社概要

地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で豊かな社会の実現に貢献する。
を経営理念に、IT 専門会社と連携によるEdTech事業を展開しています。



社名	株式会社 J T B	【財務情報】	
資本金等	10,000万円	売上高	582,323百万円
代表	代表取締役社長執行役員 山北 栄二郎	総資産	709,487百万円
設立年月	1963年11月12日		(2022年3月期)
本社	東京都品川区東品川2-3-11		
従業員数	19,510人 (グループ全体2022年3月31日時点)		

旅行業を中心に事業を営む他、企業や団体、教育、行政等に関わるお客様のさまざまな課題をともに考え、その解決に向けた高付加価値なサービスの提供により、お客様の課題解決と価値向上に貢献



社名	株式会社オープトーン	【財務情報】	
資本金等	1,500万円	売上高	294百万円
代表	代表取締役社長 佐藤 大輔	資本金	15百万円
設立年月	2003年2月17日		
本社	東京都千代田区神田須田町2-5-2		
従業員数	30人 (パート・アルバイト除く)		

WEBシステム開発及びシステムコンサルティング、IC タイムリコーダーの開発・サービス提供、システム開発に関するセミナー開催、書籍の執筆・出版
Webコンテンツの作成・運営
AI、ビッグデータ、IOT 等、IT を用いた研究開発

■ お問い合わせ窓口

株式会社 J T B 霞が関事業部
郵便番号 100-6051
住所 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル23階

担当 長田・高知尾
電話番号 03-6737-9263
E-mail r_osada818@jtb.com